



改訂教科書紹介 Part.3 新簿記 新訂版 高校簿記 新訂版

城西大学経営学部スポーツマネジメント科特任教授
粕谷 和生

1 教科書の特長

	新簿記	高校簿記
表現	図解・イラストを多用したわかりやすい表現	スピード学習向きのコンパクトな表現
構成	段階的に無理なく進むステップ構成	「取引の記帳と決算」を繰り返すサイクル構成
検定試験	全商簿記検定3級・2級対策の決定版	日商簿記検定3級・2級対策の決定版
共通点	慣行的な記帳方法の見直しを行い、特に仕訳帳の記入を簡略化して学習者の負担を軽減。	

新簿記と高校簿記二点の表現・構成等は、上の表のとおりで、その特長は新訂版においても変わりません。特に検定試験との関連では、新簿記が全商対策決定版として、高校簿記が日商対策決定版として益々使い勝手がよくなっています。

2 改訂にあたっての工夫

(1) 新簿記

① 全商決定版としての配列変更

学習指導要領に準拠して全商簿記検定の新しい出題範囲が確定したことに合わせて、章の配列を変更しました。まず、全商3級の出題内容に合わせて第1章から第20章を設け、すべてのページのインデックスを赤色としました。続いて全商2級の出題内容に合わせて第21章から第30章を設け、すべてのページのインデックスを青色としました。この色分けにより一冊の教科書のなかで3級と2級が明確に区分でき、授業や自学自習の進捗度をとても管理しやすくなっています。

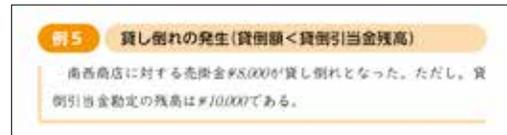
② 新しいテーマの改善・充実

クレジット売掛金や電子記録債権・債務、当座預金の期末貸方残高の当座借越への振り替えなど、比較的新しいテーマについては、文章や図解などを改善し、より容易に学習が進むようにしました。また、電子記録債権の割引や消費税の納付などについては、例題を追加して内容をより充実しまし

た。

③ 例題の改善・充実

すべての例題にタイトルをつけ、いま何を学んでいるのかを一目でわかるようにしました。



また、例題を理解するうえで、特に重要となる考え方や注意点について、従来からある吹き出しに加えて☑(チェックマーク)を付した短文解説を設けました。

④ 解説動画によるサポート

すべての例題と重要事項についてアニメーション形式の解説動画を用意しました。教科書と同じ紙面で動画が作成されていますので、予習・復習はもちろんのこと自学自習にも大いに役立ちます。



(2) 高校簿記

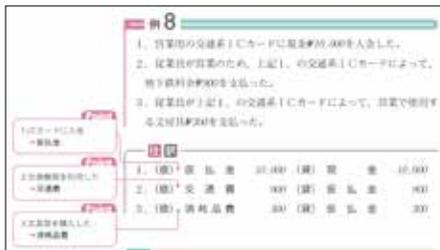
① 日商決定版としての Let's Try など

全商検定を超えて日商検定によく出題される内

容については、Let's Try や トリビア、発展学習などの囲みですべて対応しました。そのため日商検定3級・2級の受験対策教科書としては、最も適したものとなっており、この教科書さえあれば十分です。

② Point 囲みを新設

例題について解答を導き出すための考え方や計算方法を Point という囲みで詳しく解説しました。解答プロセス中にタイムリーに Point を配置していますので、解法の流れのなかのどの部分の解説であるかが一目でわかるようになっており、さらに Point と表記することで見やすい紙面となっています。



③ 他に類をみない解説動画

簿記の5要素を意識させて仕訳の基礎を習得できる動画や問題文の読み方から解答の導き方までを順を追って丁寧に解説する動画を用意しました。授業の補完や自学自習に最適です。動画数は重要な仕訳問題を中心に42個あり、例題設置ページの右下にある二次元コードから、その章の例題動画一覧(弊社サイト)へアクセスできるようになっています。

3 全国の先生へメッセージ

—— 代表著者に大学教授が就く理由 ——

新簿記の代表著者は安藤英義先生(一橋大学名誉教授)、高校簿記の代表著者は大塚宗春先生(早稲田大学名誉教授)と川村義則先生(早稲田大学教授)です。三名とも著名な会計学者で、なおかつ高校の簿記教育に精通しており、教科書作りにおいては最新の会計制度や学会の動向等を踏まえ、的確にリードしていただいております。このことを示す格好な例を紹介します。

新簿記と高校簿記は、令和4年度版から仕訳帳の記入方法については、簡略化した扱いにしました。理由は生徒の学習負担を軽減し、新しい分野の学習時間を確保しようという狙いからです。また、会計ソフトを活用する会計実務の現状を踏まえると、手書きを前提とした仕訳帳の記入方法を細かく学習する意味は、大幅に低下していると考えられるからです。

そこで初期の頃の編集会議では、従来からある仕訳帳の様式は示さずに、日付欄と借方・貸方の枠だけを設け、そこに仕訳を記入するという案を検討していました。会計ソフトの入力画面のイメージです。

しかし、代表著者からは「そこまで簡略化しては、仕訳帳と総勘定元帳の関係を生徒に理解させることが難しくなる。仕訳帳の元丁欄の記入は重要な意味を持つので、ここは省略すべきではない。」という指摘が出されました。まさにそのとおりで、この指摘により、行き過ぎた簡略化を防ぐことができました。

その結果、仕訳帳記入の簡略化は、以下の三点にとどまりました。

- ① 勘定科目につける()を外す。
- ② 勘定科目が複数あっても諸口を書かない。
- ③ どんな場合も、借方記入の最終行の次の行に貸方記入を始める。この簡略化により、従来から生徒たちを悩ませていた「借方複数科目、貸方一科目の場合に、貸方を一行目に記入する」という記入法はなくなりました。

最終的に、以上のように仕訳帳の記入を簡略化しても学問上はまったく問題ないというお墨付きを代表著者の先生方から得ることができました。

新簿記および高校簿記は、代表著者の先生方の理論・実務・制度・歴史など幅広い観点からのフィルターを通して出来上がっています。したがって、全ページにわたり、正確で高品質の信頼性の高い教科書に仕上がっており、安心して使っていただけます。是非、全国の先生方の授業でフル活用していただけることを願っております。